

コストカットのみでは地域に理解されません

先日このような JR 東日本に関する記事が掲載されました。

JR 東日本は新型コロナによる経営悪化に伴い、除草費用の見直しを余儀なくされており、2年前から沿線の除草が行われずにいる。「水田の管理に支障を来す」という声や草花栽培の方からは「雑草から虫が付き病気にならないか」と危惧する声が出ている。JR 側は「経費見直しに伴い対応できる箇所が現象している。沿線住民に迷惑をおかけし、申し訳ございません」とコメントをしている。

〈報道記事要約〉

最近乗務をしていて列車に草木が当たることや信号機の視認性が悪くなったり、発車ベル周辺に草木が生い茂っているなど山間部を中心に年々状況が悪化しています。コストカットを名目に沿線へご迷惑をおかけすることなく、安全で沿線から信頼される鉄道事業を運営するべきです。

コロナ禍以降にコストカットの大号令から地域や自治体に説明もしないまま駅の時計を撤去していることや時刻表の撤去を大幅に進めていることから地域から理解される鉄道事業ではありません。また、みどりの窓口閉鎖が相次ぎ指定席券売機にはお客さまが並び、社員が操作をしてきっぷを発売していることや購入が間に合わずに車内で料金差額によるトラブルが起きるなど「不便に慣れてもらう」という会社の方針がお客さまや現場に影響を大きく与えてしまっています。

列車の運行に支障を来すような沿線の環境や地域・利用者の声など実態を見ずにコストカットが優先されては元も子もありません。

鉄道の在り方と地域共生を考え

現場の実態を知りコストカットを考えるべきでは？